



旧大平峠 (兀嶽国有林) から御嶽山を望む

大平宿は長野県飯田市 (三州街道) と木曾谷 (中山道) を結ぶ大平街道のほぼ中間地点、標高一、一五〇メートルの山中にあります。大平宿の始まりは江戸時代中期、飯田は飯田藩の城下町として栄えていましたが、当時、主要街道は中山道が通る木曾谷でしたか



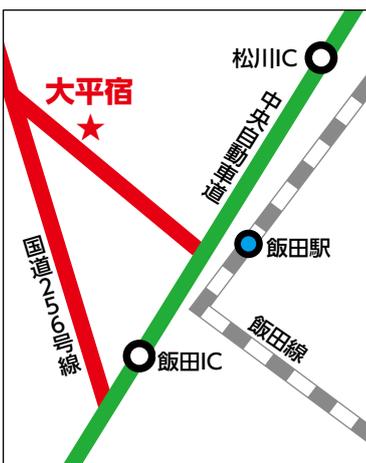
大平宿の集落入口

ら、そこへ出るために木曾山脈 (中央アルプス) を大きく迂回する必要がある、飯田藩は宝暦四年 (一七五四年)、中山道の宿場町である妻籠宿と城下を直線で結ぶ「大平街道」を新たに切り拓き、明治時代まで飯田と木曾谷を結ぶ主要道路として栄えてきました。しかし、大正時代になると伊那谷に鉄道が開通し、また昭和三十年代には峠越えの道路として清内路峠を越える国道二五六号線が整備されたことで徐々に衰退するとともに、昭和四十五年 (一九七〇年) に集団移住され廃村となっています。



切妻屋根の江戸時代からの家屋

その後、飯田市の上水道取入口付近の別荘地分譲がきっかけとなり、集落保存活動が始まり、全国の利用者によって集落全体が保存され、現在、大平宿は、飯田市自然環境保全地区、長野県郷土環境保全地区に指定されています。大平街道の道筋に沿って並ぶ家は、緩い勾配の切妻屋根が特徴となつていますが、トタン屋根に変えている家や、昔ながらの板葺屋根を石で留めた「石置屋根」の家も数多くあり山村集落らしい風情を醸し出しています。また、これらの家屋は、雪や雨



- ◆所在地
長野県飯田市上飯田
- ◆宿泊に関する問合せ
長野県飯田市育良町1-2
株式会社南信州観光公社
電話 〇二六五-二八-一七四七
- ◆アクセス
〔自動車〕
中央自動車道飯田ICから二五キロメートル(約六十分)

をしのぐため二階部分を手前にせり出して軒を深くしている「せがい造り」と呼ばれる建築技法で建てられています。この「大平宿」は、単に廃村では無く、電気・水道は使用できるものの、携帯電話は通じない不便な場所です。俗世間から離れ日常と違う生活を体験できる江戸時代の建物群として、現在、一般に広く開放されています。(宿泊は四月末〜十二月中旬まで)